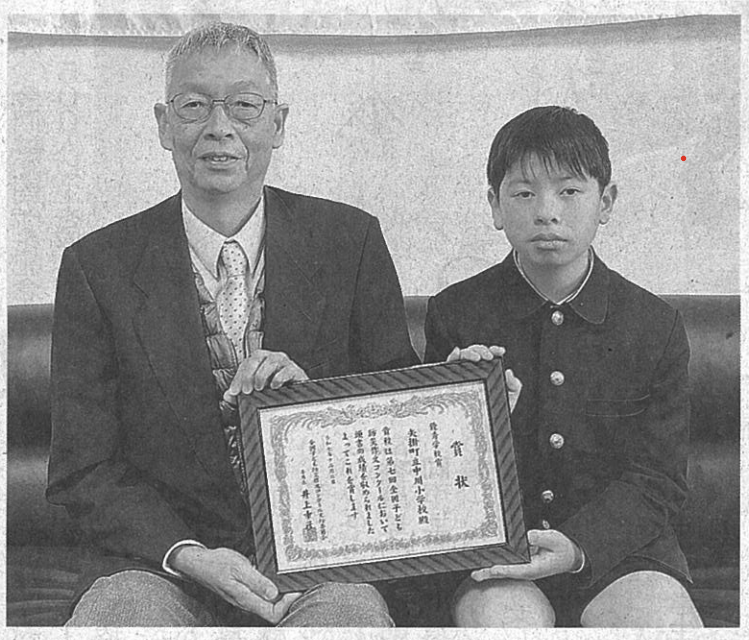
第3種郵便物認可

自然災害に遭ったときの行動や日頃の備えなどについて考える「第7回全国子ども防災作文コンクール」（実行委主催）で、矢掛町立中川小学校（同町本堀）が優秀学校賞を受賞した。同小は2018年の西日本豪雨をきっかけに防災教育に尽力。児童たちが授業で学んだことをまとめ、高い評価を受けた。（浪速祐彦）

全国子ども防災作文コンクール

中川小（矢掛）優秀学校賞



優秀学校賞の賞状を掲げる村木校長（左）と江木さん

5人入賞 豪雨教訓 学びまとめる

中川小学校区は西日本豪雨の際、町の東西を流れる小田川が氾濫し大規模な浸水被害を受けた。同小の校舎は床上1・5㍍まで水に漬かり、当時の児童たちは一時近隣の小学校に通った。防災教育の授業では、卒業生が被災時の体験を語ったり、住民と一緒に避難訓練を行ったりしている。昨年3月には地域一帯で安全対策を進める学校を認証する「セーフティプロモーションスクール」に選ばれた。

作文コンクールは、全国の小・中・高校生が対象。同小は5人が個人入賞を果たし、優秀学校賞に選ばれた。

入賞者のうち、6年江木悠真さん(12)は「防災意識を高めよう」と題し、ハザードマップを確認し、防災バッグを準備しようとしていることなどを紹介した。「西日本豪雨以降も地震などの災害が相次いでいる。備えの大切さについて、何回も書き直して仕上げた」と振り返る。

村木美晴校長は「豪雨の記憶を伝えていくことが必要。受賞を励みに防災教育を続けていきたい」と話している。

看護師不足解消

新見医師会 市奨学金制度

新見医師会は、看護師を目指す学生を対象にした市の「看護学生奨学支援金給付制度」に180万円を寄付した。

市役所で26日に贈呈式があり、吉田徹会長が「看護の担い手不足は住民の大地域医療の今後も制度いく」と話石田実市長た。石田市を担う人材増やすためも協力して